(財)米子市教育文化事業団
文化財発掘調査報告書 66

鳥取県西伯郡

# 伯耆町

# 小野第2遺跡

2012. 3

財団法人　米子市教育文化事業団

調査地周辺（南西方向から）

# 序

当事業団の埋蔵文化財調査室は、米子市の埋蔵文化財の調査研究を目的に平成４年の春に発足しました。しかし、時代の流れとともに公共工事を中心とした開発事業の縮小により、平成20年度からは鳥取県西部地域の調査研究も担うこととなり、米子市に隣接する南部町や伯耆町の埋蔵文化財調査を行うことになりました。これにより、鳥取県西部全体をとおした幅広い視野で埋蔵文化財の調査研究を行うことができるようになったと考えております。

今回、中国電力株式会社から委託を受けて実施した「小野第２遺跡」の発掘調査報告書を刊行することになりました。調査では、縄文時代のトンネル状遺構・陥穴、弥生時代の竪穴建物跡が発見されました。この報告書が、今後さまざまな分野で広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査に当たって地元をはじめ多くの方々にお世話になりました。ご指導、ご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

平成２４年３月

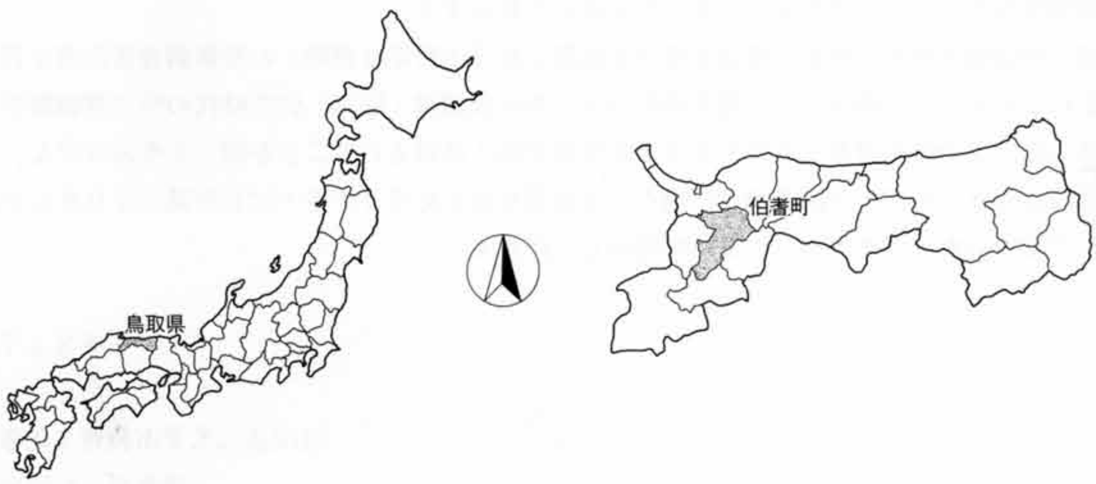
財団法人米子市教育文化事業団
理事長　杉原弘一郎

# 例　　言

1．本書は中国電力株式会社の依頼を受けて、財団法人米子市教育文化事業団が平成23年度実施した、黒坂線№90～97経年鉄塔立替工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　本書の図中の方位は磁北で、レベルは海抜標高を示す。
3　本書に記載した第２図は伯耆町（旧岸本町）発行の5,000分の1地形図「岸本町全図５」を複写して掲載している。
4　本書に記載した第３図は国土地理院発行の５万分の１地形図「米子」、「大山」、「根雨」、「湯元」を加筆して使用した。
5　発掘調査によって出土した遺物は、伯耆町教育委員会が保管している。
6　調査にあたっては、米子市教育委員会および伯耆町教育委員会の指導助言を受けた。
7　本書の執筆及び編集は財団法人米子市教育文化事業団が行った。

# 凡　　例

1　遺物実測のうち、断面は白抜きで示した。
2　遺跡の略称は、ONO2とした。
3　遺物実測図の土器の縮尺は1/ 4、石鏃は1/1で掲載している。
4　本文、挿図及び写真図版中の番号は一致する。




第１図　伯耆町位置図

# 目　　次

序
例言
凡例
目次
第１章　調査の経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　　第１節　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　　第２節　調査の体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２章　位置と環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　　第１節　位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　　第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第３章　伯耆町小野第２遺跡の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　　第１節　調査の経過と方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　　第２節　調査区内の堆積 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　　第３節　遺構について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　　第４節　遺構外遺物について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第４章　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

# 第１章　調査の経緯

## 第１節　調査に至る経過

中国電力株式会社の黒坂線№90～97経年鉄塔立替工事に伴い、文化財の保護の協議を受けて、平成22年度に伯耆町教育委員会が試掘を行った結果、遺物の包含層が確認され、中国電力との協議の結果、発掘調査を平成23年度に行うこととなった。調査の実施について、米子市教育委員会を通じて伯耆町教育委員会から財団法人米子市教育文化事業団に協議があり、これを実施することとなった。現地調査は、平成23年４月13日から平成23年５月13日まで行った。

調査の結果、トンネル状遺構１条、竪穴建物跡１棟、陥穴４基の遺構を検出し、弥生土器、土師器、石鏃等の遺物が出土した。

## 第２節　調査の体制

・調査主体　財団法人米子市教育文化事業団
　　理　事　長　杉原弘一郎
・調査担当　埋蔵文化財調査室
　　室　　長　角　　昌之　　事　務　長　小原　貴樹
　　統括調査員　平木　裕子　　非常勤職員　田中　昌子
・作業員　有馬　　均　　奥田　吉美　　斉木　　博　　坂本　　茂
　　松川　昭夫　　山田　　通　　石田　直美　　小椋　京子
　　(敬称略)

# 第２章　位置と経緯

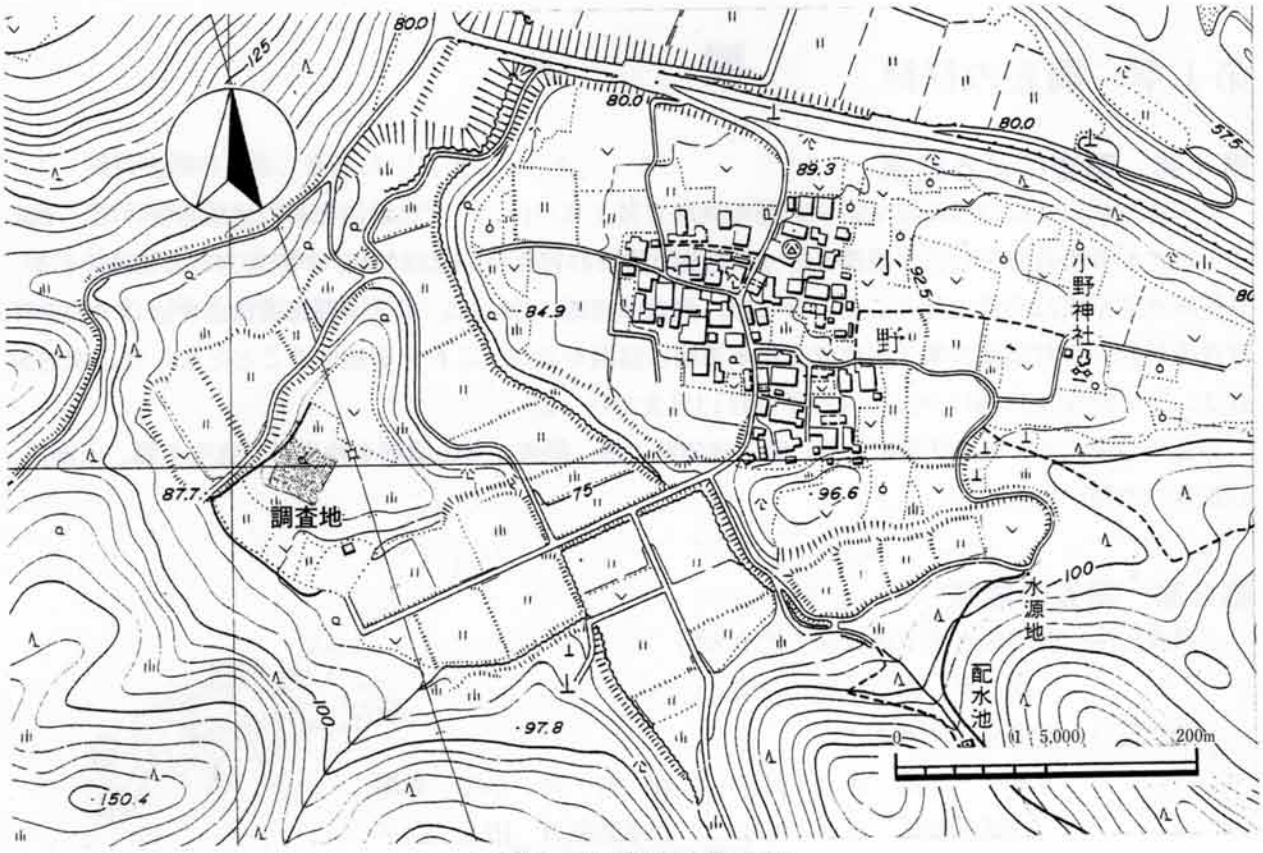
## 第１節　位置

今回調査を行った伯耆町小野第２遺跡は、伯耆町の北西部日野川左岸からやや奥まった小高い丘陵に位置する小野地区に広がる縄文時代から弥生時代の遺物散布地である。東に大山の秀景を、北は日野川の扇状地を含む米子平野を望む。扇頂になるこの地は日野川傍に肥沃な田地がわずかに広がるのみで、すぐに山地地形となる。集落の後方は南西から南に谷状の農地が広がるが、さらにその奥には高塚山の森林地帯が広がっている。

伯耆町は、平成17年に岸本町と溝口町が合併して伯耆町となり、北を米子市、東を大山町・江府町、南を日野町、西を南部町に囲まれ、鳥取県西部の中央に位置する。総面積は139.5㎢、人口は約12,000人、世帯数3,773戸である。

伯耆町は町の中心を日野川が南東から北西に町を分断するように流れている。このことによって町は大別して四地域に分かれる。まず日野川の右岸地域の、標高1,729mの大山の中腹から伸びる大山裾野に形成された台地あるいは高原状の平坦地、次に日野川左岸の標高301.1mの高塚山と標高226.5mの越敷山からなる丘陵台地、町の南部を占める高く急傾斜の険しい山が連なる山稜地、そして日野川の下流域に扇状に広がる米子平野の扇頂にあたる平坦地からなる。

今回の調査地は、旧岸本町と旧溝口町との境にあたり、西方に広がる越敷山台地裾野の独立した小




第２図　小野第２遺跡位置図

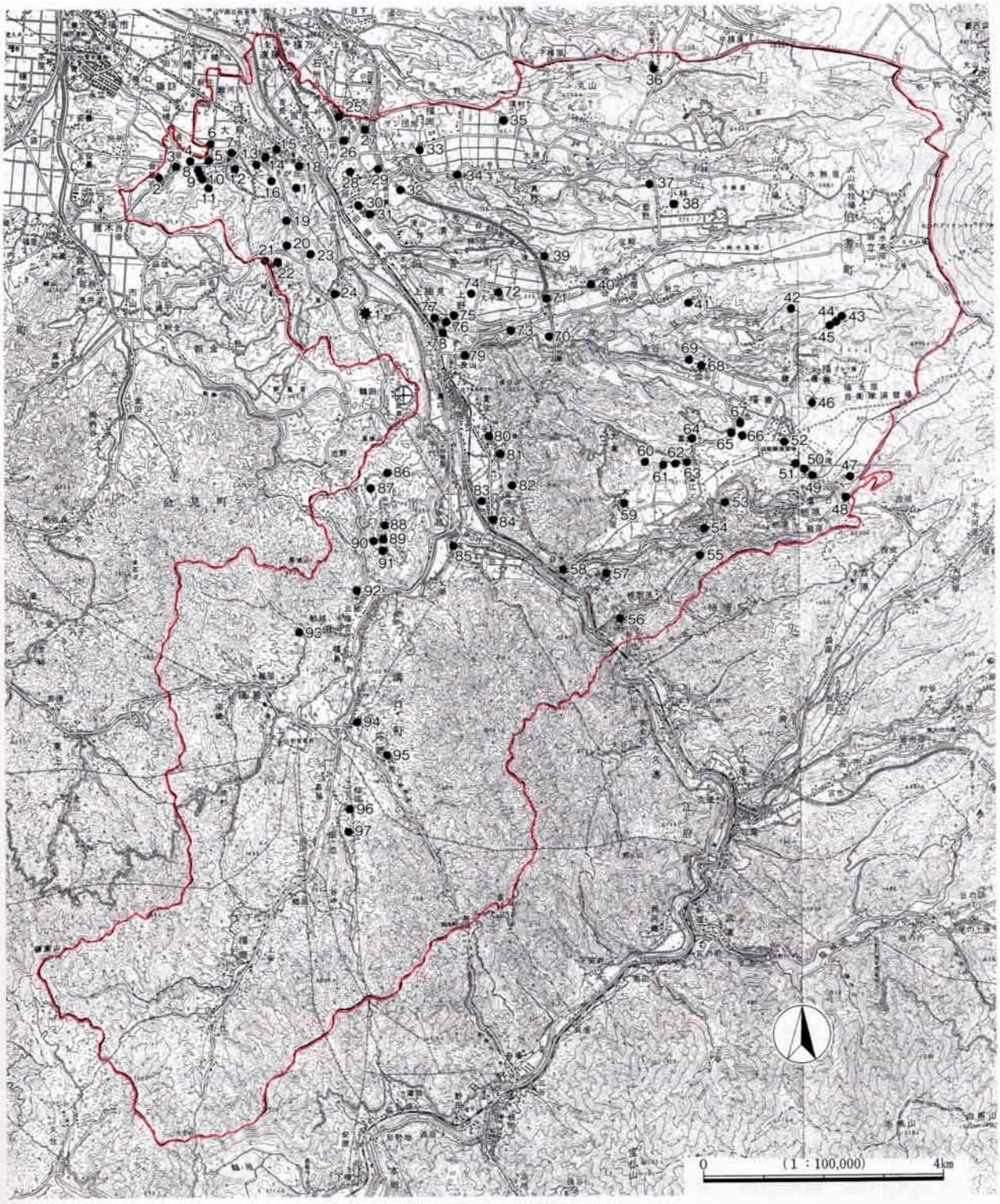
丘陵地に立地し、東側約800mに日野川が流れる。越敷山台地は粗面玄武岩の溶岩台地を形成し、周囲を広い範囲で大山から噴出した火山灰の層が堆積している。

## 第２節　歴史的環境

伯耆町域で人類の痕跡が見られるようになるのは旧石器時代まで遡ることが出来る。当地域では、坂長村上遺跡（4）から黒曜石製のナイフ形石器が検出されており、周辺地域では諏訪西山ノ後遺跡、淀江町小波遺跡、泉中峯遺跡で黒曜石製のナイフ形石器が出土している。

縄文時代草創期には、三部で尖頭器が採取されているほか、尖頭器を中心とする石器群が出土した坂長村上遺跡、有茎尖頭器が出土した貝田原遺跡（32）が知られ、周辺では同じく有茎尖頭器が出土した遺跡として奈喜良遺跡、陰田宮の谷遺跡、淀江町中西尾が知られる。また隣接する南部町諸木遺跡・福成石佛前遺跡においてもサヌカイト製の有舌尖頭器が出土している。

縄文時代早期の代表的遺跡には、多くの土坑や配石墓と考えられる集石が発見された上福万遺跡があげられる。当地では長山馬籠遺跡（77）、林ヶ原遺跡（39）、久古北田山遺跡（33）で押型紋土器が出土し、長山馬籠遺跡、井後草里遺跡（51）では押型紋尖底土器が出土している。その他、下山南通遺跡（71）、上中ノ原遺跡（50）、南原第１遺跡（46）、須村遺跡（35）があげられる。縄文時代前期になると下山南通遺跡、長山馬籠遺跡が知られ、後者では石器製作工房跡が確認されている。縄文時代後期から晩期になると、神原遺跡（49）、井後草里遺跡（51）、下山南通遺跡、長山馬籠遺跡があり、周辺では古市河原田遺跡で、縄文時代後期から晩期にかけての土器が多量に出土している。その他、越敷山遺跡群（21）では陥穴が多数検出されている。周辺では妻木晩田遺跡、青木遺跡で多くの陥穴が確認されたほか、新山山田遺跡、古市遺跡群において縄文時代の遺構・遺物は出土しているが、遺跡としての全体像は不明である。




第３図　伯耆町遺跡図

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 小野第２遺跡 | 15 | 大寺廃寺跡 | 29 | 久古第３遺跡 | 43 | 見出3号墳 | 57 | 根雨原第1遺跡 | 71 | 下山南通遺跡 | 85 | 東屋敷古墳 |
| 2 | 荒神上遺跡 | 16 | 坂中第５遺跡 | 30 | 口別所古墳群 | 44 | 見出2号墳 | 58 | 白水古墳 | 72 | 大平原第2遺跡 | 86 | 宇代・上双子古墳 |
| 3 | 長者屋敷遺跡 | 17 | 越敷山古墳群 | 31 | 吉定１号墳 | 45 | 見出1号墳 | 59 | 落し原遺跡 | 73 | 川平遺跡 | 87 | 菅沢古墳 |
| 4 | 坂長村上遺跡 | 18 | 岸本大成遺跡 | 32 | 貝田原遺跡 | 46 | 南原第1遺跡 | 60 | 境塚古墳 | 74 | 大平原第1遺跡 | 88 | 中ノ平1号墳 |
| 5 | 坂長下屋敷遺跡 | 19 | 坂長佛谷遺跡 | 33 | 久古北田山遺跡 | 47 | 鬼の岩屋古墳 | 61 | 向林3号墳 | 75 | 上野第3遺跡 | 89 | 中ノ平2号墳 |
| 6 | 長者原古墳群 | 20 | 小町石橋ノ上遺跡 | 34 | 番原遺跡群 | 48 | 東原遺跡 | 62 | 向林2号墳 | 76 | 上野第2遺跡 | 90 | 尼ヶ谷古墳 |
| 7 | 長者原18号墳 | 21 | 越敷山遺跡群 | 35 | 須村遺跡 | 49 | 神原遺跡 | 63 | 向林1号墳 | 77 | 上野第1遺跡 | 91 | 中ノ平3号墳 |
| 8 | 坂長第６遺跡 | 22 | 小町越城野原第9・10遺跡 | 36 | 丸山朝日当遺跡 | 50 | 上中ノ原遺跡 | 64 | うね古墳 | 78 | 上野貝塚古墳 | 92 | 古城山古墳 |
| 9 | 坂長第７遺跡 | 23 | 小町越城野原第1・2遺跡 | 37 | 真野ブナ遺跡 | 51 | 井後草里遺跡 | 65 | 下ノ木3号墳 | 79 | 長山馬籠遺跡 | 93 | ナラ木古墳 |
| 10 | 坂長第８遺跡 | 24 | 小町第１遺跡 | 38 | 藍野遺跡 | 52 | 三角点古墳 | 66 | 下ノ木2号墳 | 80 | 谷川屋敷古墳 | 94 | 二部神社古墳 |
| 11 | 坂長下門前遺跡 | 25 | 岸本遺跡群 | 39 | 林ヶ原遺跡 | 53 | 陰平古墳 | 67 | 下ノ木1号墳 | 81 | 谷川遺跡 | 95 | 間地古墳 |
| 12 | 坂中廃寺跡 | 26 | 岸本要害 | 40 | 下山南遺跡 | 54 | 水尻遺跡 | 68 | 今在家遺跡 | 82 | 宮原屋敷古墳 | 96 | 宮の元古墳 |
| 13 | 坂長宮田ノ上遺跡 | 27 | 岸本下の原遺跡 | 41 | 宇根古墳 | 55 | 狐塚古墳 | 69 | 岩屋がそね古墳 | 83 | 宮原神社古墳群 | 97 | 山崎古墳 |
| 14 | 越敷ヶ丘遺跡 | 28 | 岸本古墳群 | 42 | 芝山古墳 | 56 | 王子古墳 | 70 | ノブシ原古墳 | 84 | 宮原古墳 | | |

弥生時代は大陸から伝来した水稲耕作と金属器の普及により階級社会が成立していく時代である。弥生時代前期の代表的な遺跡の、目久美遺跡や池ノ内遺跡、長砂第２遺跡などでは水田跡が検出され、木製の農耕具が多く出土し、水田農耕が開始されている。また、この時期に丘陵上に環壕をもつ集落跡がみられるようになる。弥生時代中期以降になると、集落が盛んに営まれるようになるが、大規模で長期間継続するものと、小規模で短期間で消滅するものとに分かれる。大規模集落としては妻木晩田遺跡、福市遺跡、青木遺跡等が知られている。当地域では下山南通遺跡、神原遺跡、上中ノ原遺跡で集落が営まれるようになり、後期になって更に越敷ヶ丘遺跡（14）、藍野遺跡（38）、上野第２遺跡（76）、下山南通遺跡、大平原第１・２遺跡（72・74）、長山馬籠遺跡、水尻遺跡（54）、根雨原第１遺跡（57）等、集落遺跡の数が増加する。集落を形成する一方、墳墓は尾高浅山遺跡１号墓や日下１号墓のような四隅突出型墳丘墓も発生する。

古墳時代になると勢力をもった集団の存在を裏付けるかのように多くの古墳が築かれるようになる。古墳時代前期の古墳としては、三角縁神獣鏡が出土した普段寺１号墳（前方後方墳）・２号墳（方墳）や、石州府29号墳（円墳）、日原６号墳（方墳）が知られている。

古墳時代中期の代表的な古墳としては三崎殿山古墳（前方後円墳）などがみられる。そして米子平野周辺の丘陵部には多くの古墳群が存在する。日野川左岸では、福成早里古墳群、宗像古墳群、東宗像古墳群、陰田遺跡群、新山遺跡群、古市遺跡群等があり、日野川右岸では、尾高古墳群、日下古墳群、石州府古墳群などがみられる。

古墳時代後期になると米子平野において横穴式石室を主体部とする古墳が築造され、中でも石州府古墳群、東宗像古墳群、宗像古墳群、陰田古墳群などの後期群集墳がよく知られている。当地域でも長者原古墳群（6）、越敷山古墳群（17）、岸本古墳群（28）、口別所古墳群（30）、吉定１号墳（31）、鬼の岩屋古墳（47）、間地古墳（95）、宮原古墳（84）、上双子古墳（86）が造られるほか、周辺では貝田古墳群、佐川古墳群などの古墳群が築造されるようになる。

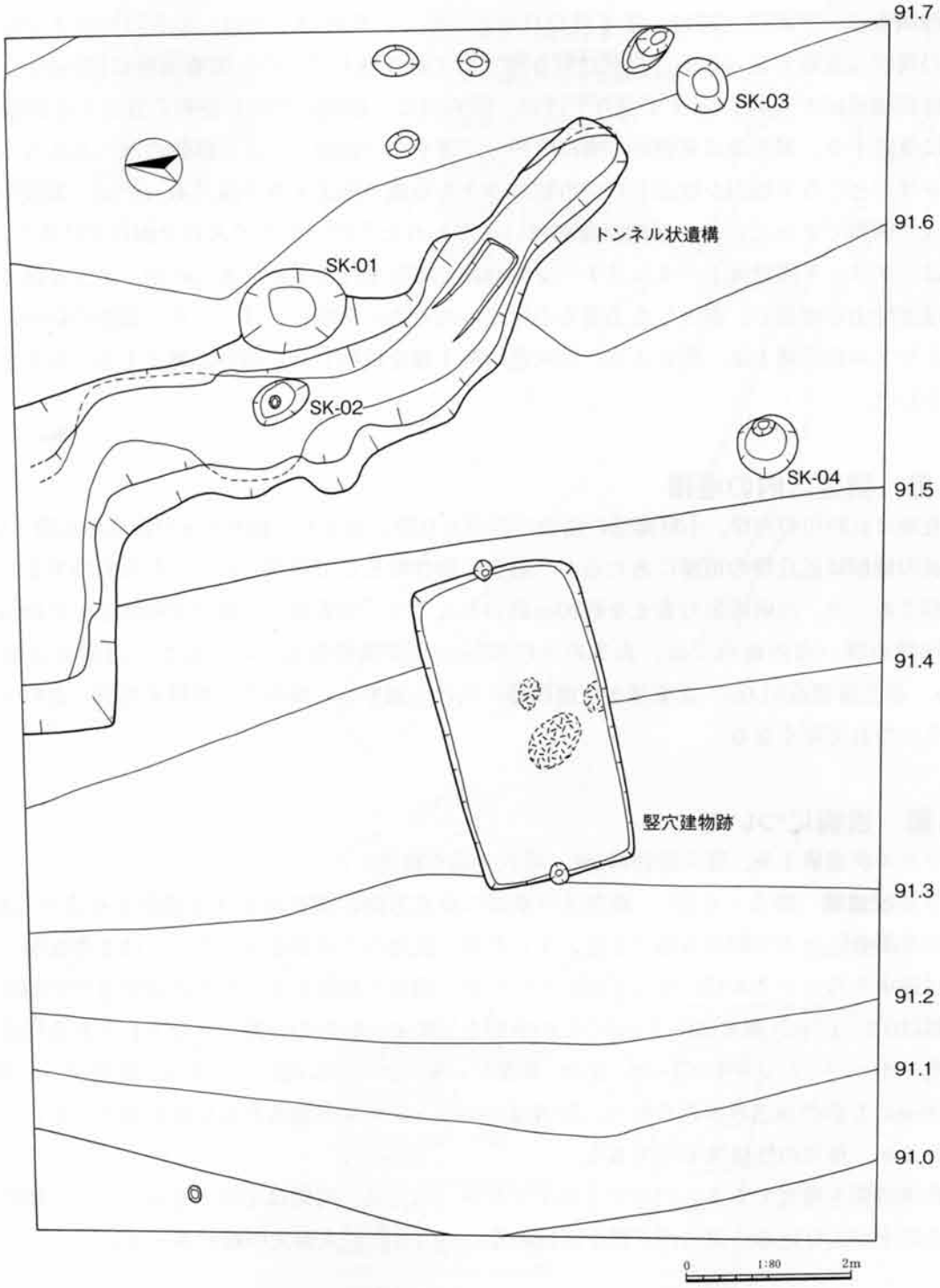
終末期になると、米子平野域では陰田横穴墓群、日下横穴墓群のような横穴墓群が造られるようになるが、当日野川流域でも杉谷横穴墓群、内ノ倉山横穴墓群などが知られている。

一方集落遺跡は、弥生時代から引き続いて営まれる福市遺跡、青木遺跡など、比較的丘陵地で多く確認されている。近年の博労町遺跡で古墳時代集落が発掘され、海浜部においても集落が営まれていたことが確認された。当地域では、丘陵地の越敷ヶ丘遺跡（14）、坂長第８遺跡（10）等で竪穴式住居の集落跡が確認されている。

奈良時代以降になると、長者屋敷遺跡（3）や、坂中下屋敷跡（5）、坂中第6遺跡（8）などで官衙に関係する大型の建物跡が確認されたほか、周辺では墨書土器や木簡など官衙的遺物が出土している陰田遺跡群が知られ、吉谷銭神遺跡、吉谷中馬場山遺跡でも墨書土器や赤色塗彩土師器などが出土している。その他、福市遺跡・青木遺跡、淀江地区の百塚遺跡群でも集落跡が確認されている。

白鳳期には全国的に多くの寺院が建立されるようになり、当地域では石製鴟尾で知られる大寺廃寺（15）が創建されたほか、坂中廃寺（12）が知られる。周辺では国内最古級の仏教壁画が出土したことで注目された上淀廃寺跡が有名である。

中世になると、城館跡として、西伯耆の拠点であったと思われる尾高城をはじめ、山名氏支配下の国人によって構築されたと思われる新山要害、石井要害、橋本七尾城などが築かれている。そのほか、中世の遺跡としては、青木古墓、諏訪１号墳、別所長峰古墓等の墳墓、長砂経塚、中山経塚などの経塚がある。錦町第一遺跡、博労町遺跡の畠跡等が確認されている。


91.7
SK-03
91.6
トンネル状遺構
SK-01
SK-02
SK-04
91.5
91.4
竪穴建物跡
91.3
91.2
91.1
91.0
0
1:80
2m

第４図　調査地全体図

# 第３章　小野第２遺跡の調査

## 第１節　調査の経過と方法

現地調査は、平成23（2011）年４月13日から開始し、平成23（2011）年５月13日まで行った。調査地の現状は荒地であったが、以前は耕作地として利用されていた。調査面積は180㎡で、深いところでは現地表面から約0.4ｍまで掘り下げた。調査地は、越敷山の南東裾野の独立した標高約92ｍ丘陵上に位置する。調査地は東側から南に向かって緩やかに傾斜し、北東部側の浅いところでは約0.2m掘り下げたところで地山を検出した。当初は表土を重機で除去する予定であったが、調査地への重機の搬入が困難であったのと、掘削深度が浅いと思われたため、すべて人力で掘り下げることにした。遺物は、グリッド設定後トータルステーションにて取り上げる予定であったが、表土を掘り下げた段階でほぼ地山を検出し、出土した土器も小片だったため一括取り上げとした。調査の結果、遺構としてはトンネル状遺構１条、陥穴４穴、竪穴建物跡１棟を検出した。遺物は縄文土器、弥生土器、石鏃が出土した。

## 第２節　調査区内の堆積

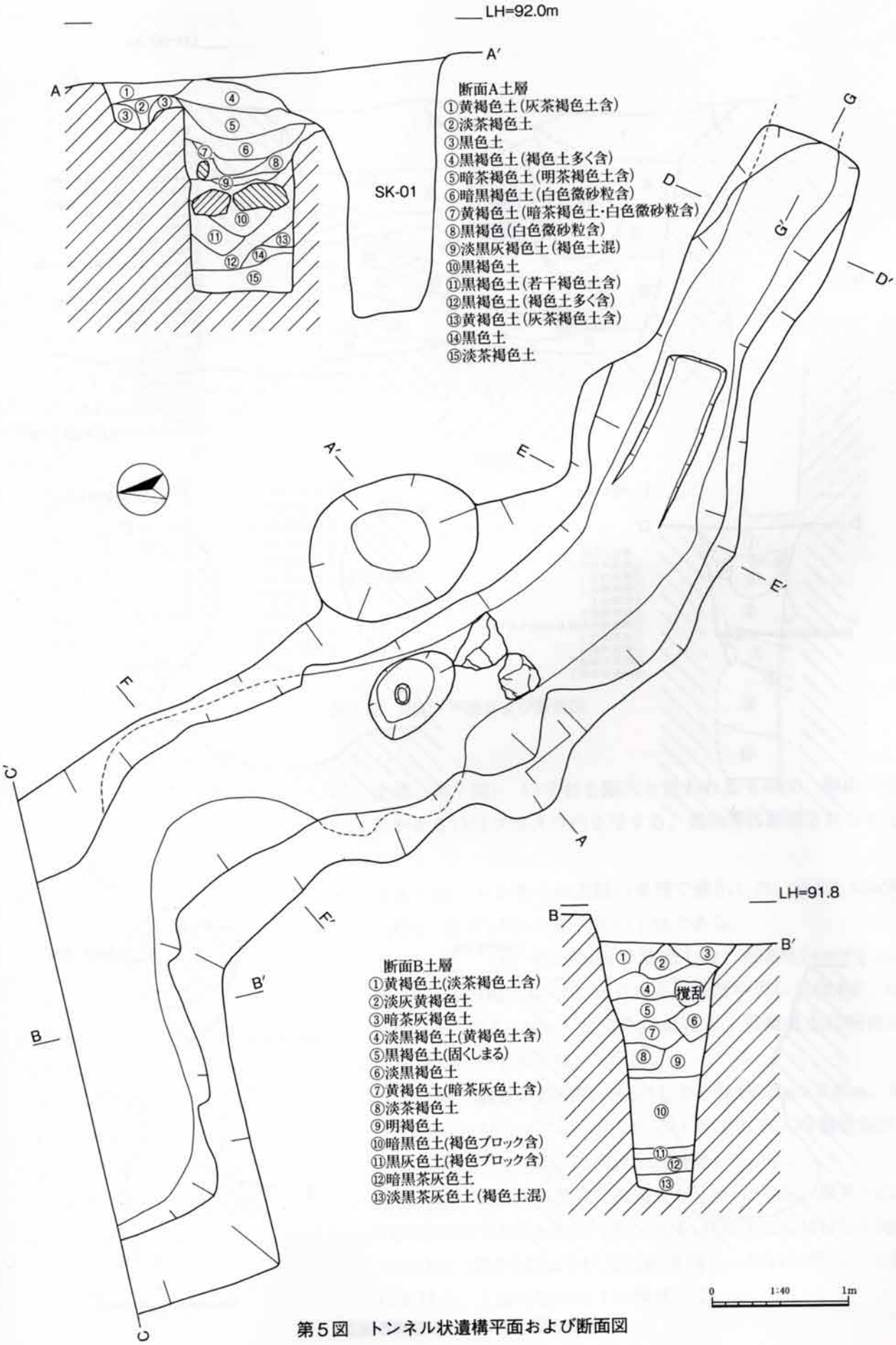
調査地は日野川の左岸、小野集落の南西の周囲を丘陵に囲まれた標高92mの独立小丘陵に位置する。調査前の地形は低丘陵の頂部にあたるが、過去に耕作地として利用されていたため削平されほぼ平坦な地形であった。淡灰褐色の表土を約20㎝剥いだところ、調査地の大部分で明褐色土の地山を検出した。堆積の厚い南西地点では、表土の下に約20㎝の淡黒褐色土がみられた。遺構面は最頂部標高91.8m、最低部標高91.0m、北東部から南西部に向けて緩やかに傾斜し、堆積も傾斜にあわせて下方に向かうにつれて厚くなる。

## 第３節　遺構について

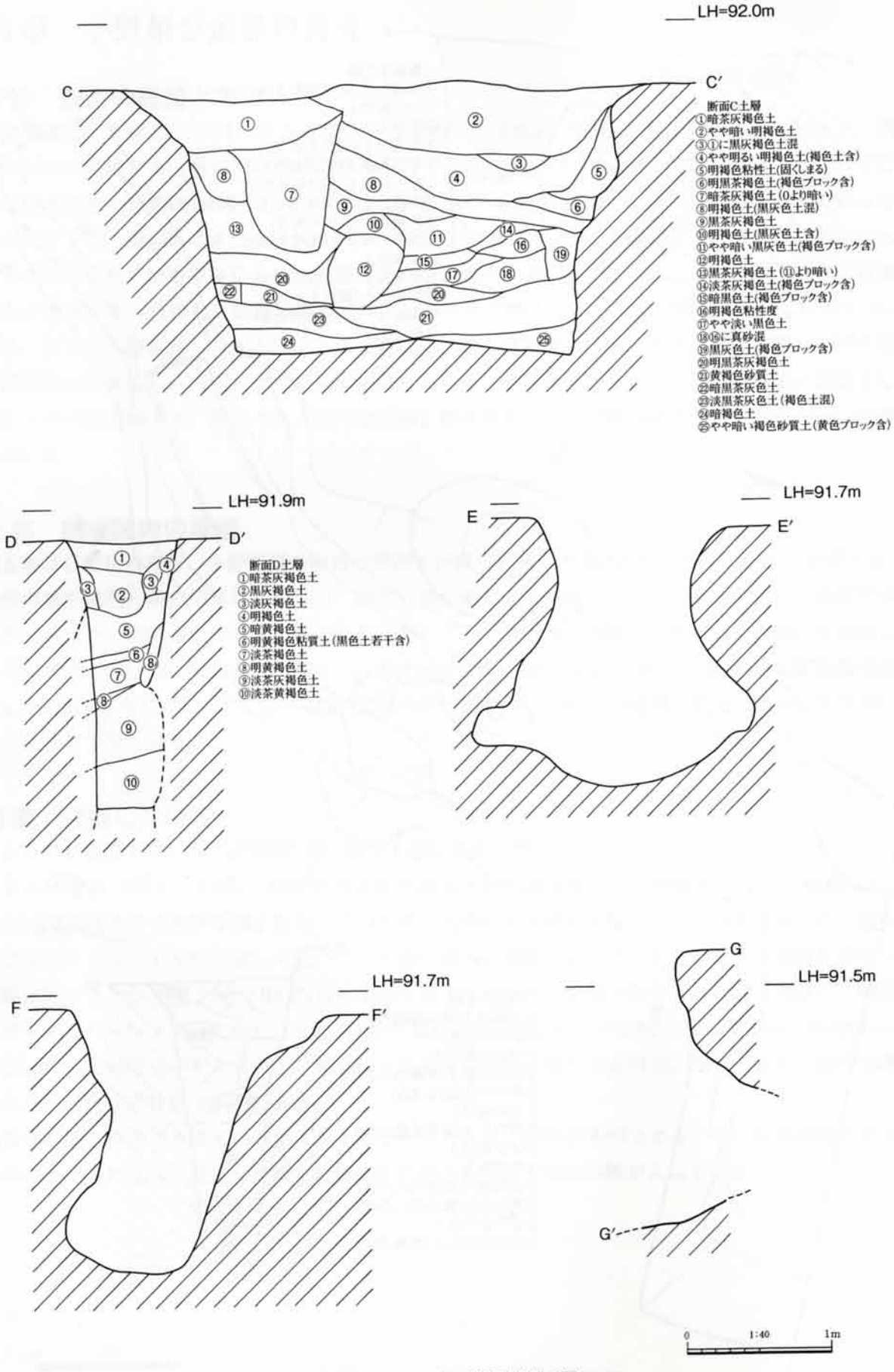
トンネル状遺構１条、竪穴建物跡1棟、陥穴４基を検出した。

**トンネル状遺構**（第５・６図）　調査区の東部に南北方向に調査地をほぼ横断するように検出した。北方向は調査区外まで伸びる様子を呈していたが、民地のため調査を行うことはできなかった。南方向へは途中からトンネル状になって続いていたが、崩落の危険があったため途中までで調査を断念した。幅は0.9～1.7m、深さ1.8～2.0ｍのＵの字形を呈する。小形の獣類が身を入れられる程度に、両壁面は所々オーバーハングしていた。また、底部には陥穴状（SK-02）の土坑と、長辺130㎝、短辺44㎝、深さ20㎝の方形の落込みがみられた。前者は、このトンネルが造られる以前に掘りこまれた陥穴と考えられるが、後者の性格は不明である。

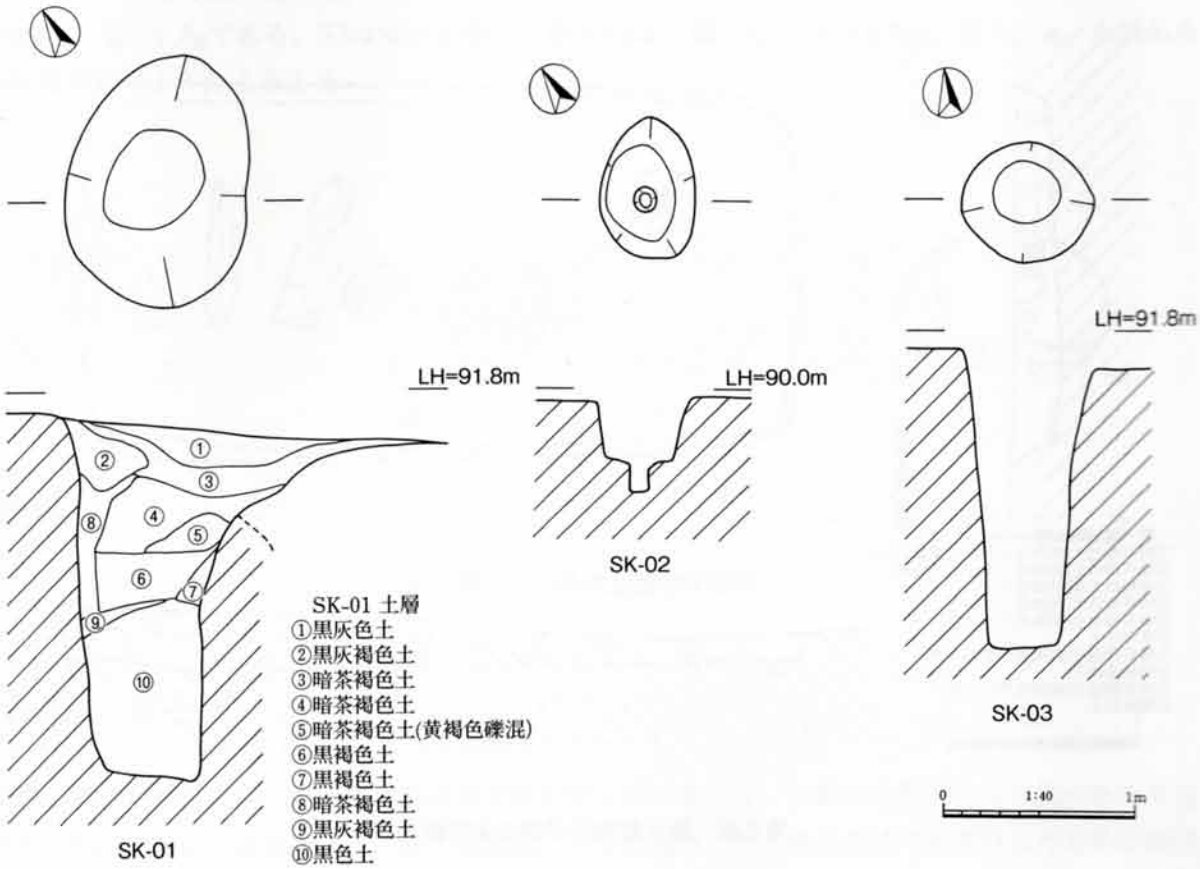
遺物等時期を確定できるものが全く出土しなかったため、時期は不明である。中には褐色系の土と黒色系の土が入り込み、追込んだ獣を仕留めるためのものか人頭大の礫が入っていた。



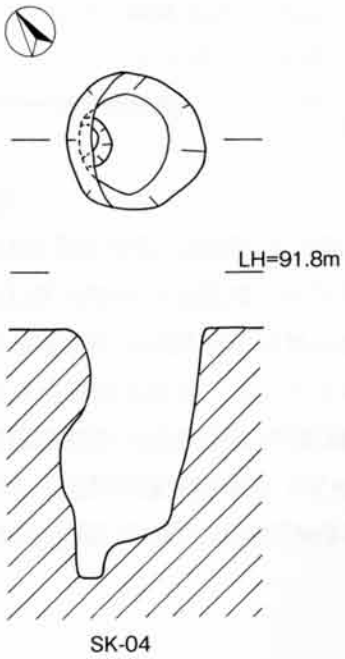

第5図　トンネル状遺構平面および断面図




第6図　トンネル状遺構断面図




第７図　陥穴 平面および断面図



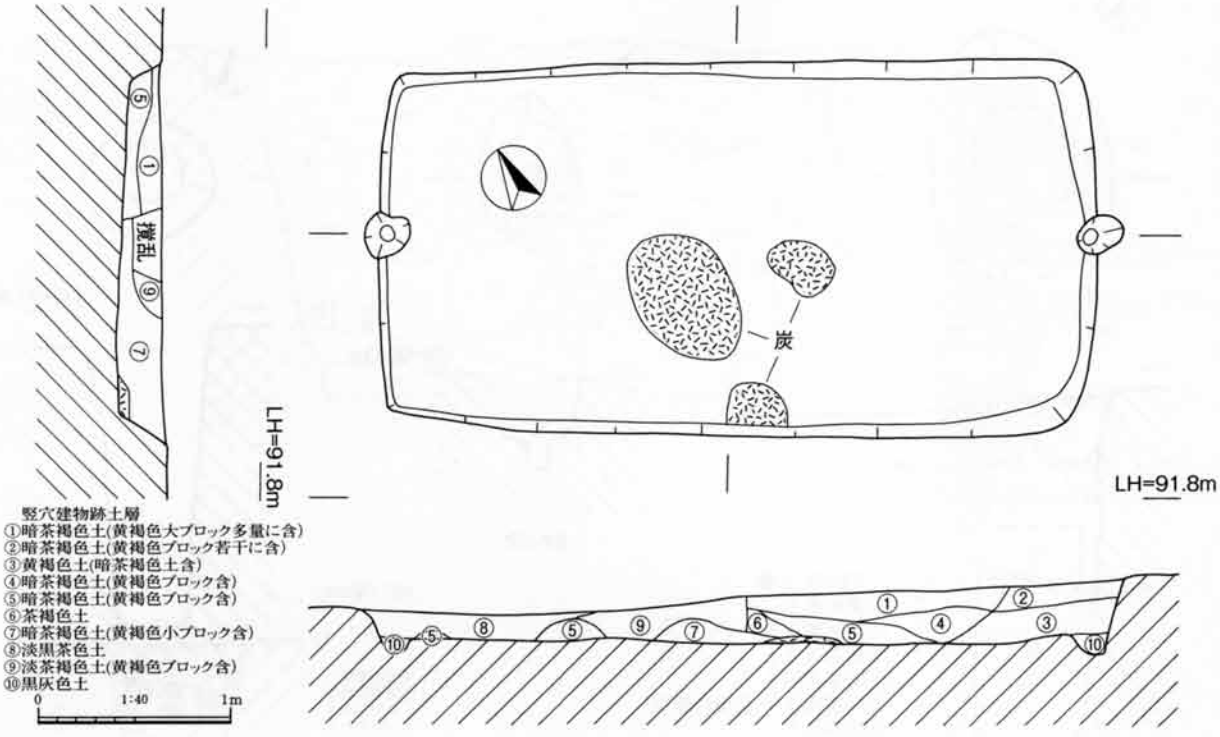

**土坑**（第７図）　いずれも陥穴と思われるもので、断面は逆台形あるいはフラスコ状を呈する。遺物等は確認されなかった。

**ＳＫ－01**　トンネル状遺構の東側で検出した、径約1.32m×1.02m、深さ1.85mの陥穴状の土坑である。

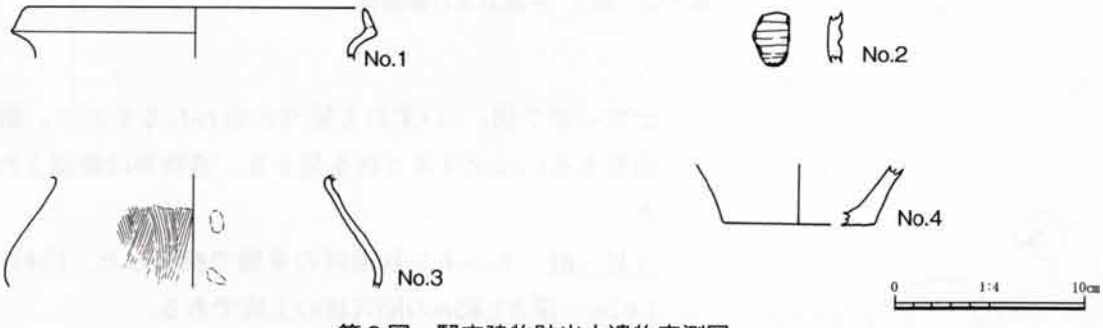
**ＳＫ－02**　SD- 01の床面で検出した、径約0.74m×0.5m、深さ0.34mの陥穴状の土坑である。底部中央には径約0.13m×0.11m、深さ0.16mの杭穴痕跡が残る。黒褐色土に明褐色土が混じった土が堆積していた。

**ＳＫ－03**　調査区西側隅で検出した、径約0.7m×0.65m、深さ1.52mの円形の陥穴と思われる土坑である。堆積状況は、下部に黒色土、上部に黒褐色土が堆積していた。

**ＳＫ－04**　調査区東側隅で検出した、径約0.83m、深さ1.12mの円形の陥穴と思われる土坑である。底部中央には径約0.26m×0.21m、深さ0.15mの杭穴痕跡が残る。堆積状況は、下部に黒色土、上部に黒褐色土が堆積していた。




第８図　竪穴建物跡平面および断面図



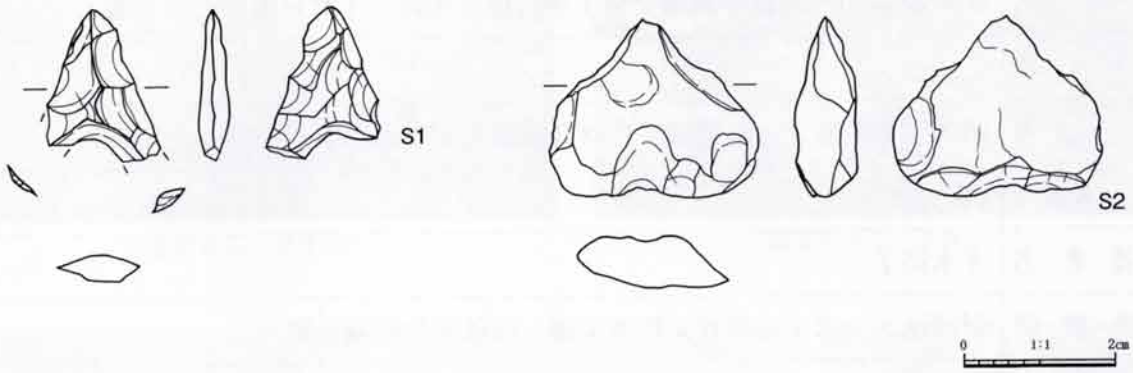

第９図　竪穴建物跡出土遺物実測図

**竪穴建物跡**（第８図）　調査区の中央部で検出した。長軸3.8m、短軸1.9～2.0m、深さ0.15～0.3mの隅丸長方形を呈する竪穴式の建物跡である。床面積は6.5㎡で、中央付近には炭が広がり、焼土面も確認された。柱穴床面ではなく短軸両壁面中央に、それぞれ東側38㎝×18㎝―12㎝、南側23㎝×23㎝―8㎝の柱穴が残る。

**出土遺物**（第９図）　弥生土器の甕と壺が出土した。№1は甕の口縁部で口径17.8㎝、残存高2.7㎝で、直角に内傾する口縁端部を有する。№2は壺の頸部で、残存高2.8㎝で、３条の凹線が廻り、外面には朱が残る。№3は壺の肩部～胴部と思われ、胴径20.0㎝、残存高6.0㎝である。№4は甕の底部で底径10.0㎝、残存高6.0㎝、時期は弥生時代中期と思われる。

## 第４節　遺構外遺物について（第10図）

遺構外には図化可能な遺物は、石鏃が２点のみであった。S1は黒耀石製で、長さ2.05㎝、幅1.5㎝、厚さ0.4㎝、重さ0.8gである。S2は安山岩製で、長さ2.4㎝、幅2.8㎝、厚さ0.8㎝、重さ5.3g。未製品あるいは模造品のようにもみえる。




第10図　その他出土遺物実測図

# 第５章　まとめ

今回の調査で確認された竪穴建物跡は長方形を呈しているうえ、一般的な竪穴住居に比べかなり極狭であった。このような建物跡は、林ヶ原遺跡、大寺原遺跡、長山馬籠遺跡でも類似したものが確認されている。規模から推測して住居ではなく作業場的な空間を想定するが、遺物の数も少なくその性格を捕えることはできない。

トンネル状遺構は、米子市の喜多原第２遺跡、南部町（旧会見町）の田住松尾平遺跡においても同じような形状のものが確認されている。前者は人為的なものか動物の生息穴か確定できないとし、後者は爪または工具状の削跡がみられることから、穴熊捕獲跡としている。また、これらよりは時期が新しいが、安来市の岩屋口北遺跡においても性格不明のトンネル状遺構として報告されている。今回確認したトンネル状遺構は、堆積状況等から喜多原第２遺跡のものに類似していると思われる。しかしながら、今回の調査ではその性格を知りえることはできなかったため、今後の調査例に期待する。

参考文献

『溝口町誌』溝口町　1973年
『岸本町誌』岸本町　1983年
『久古第３遺跡・貝田原遺跡・林ヶ原遺跡発掘調査報告書』財団法人鳥取県教育文化財団　1984年
『大寺原遺跡発掘調査報告書』岸本町教育委員会　1981年
『喜多原第２遺跡発掘調査報告書』米子市教育委員会　喜多原遺跡発掘調査団　1987年
『田住松尾平遺跡発掘調査報告書』会見町教育委員会1995年
『岩屋口北遺跡』島根県教育委員会　1997年

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | おのだい2いせき |
| 書名 | 小野第２遺跡 |
| 副書名 | 黒坂線№90～97経年鉄塔立替工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | ㈶米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 66 |
| 編著者名 | 平木裕子 |
| 編集機関 | 財団法人　米子市教育文化事業団　埋蔵文化財調査室 |
| 所在地 | 〒683－0011　鳥取県米子市福市281番地　TEL・FAX 0859-26-0455<br>eメールアドレス　yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp |
| 発行年月日 | 西暦　2012年　3月　31日　平成 24年　3月　31日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 小野第２遺跡 | 鳥取県西伯郡伯耆町小野 | 31371 | | 35度21分42秒 | 133度25分16秒 | 平成23年4月13日～平成23年5月13日 | 180㎡ | 鉄塔立替 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 小野第２遺跡 | 散布地 | 縄文時代～弥生時代 | トンネル状遺構・竪穴建物跡・陥穴 | 弥生土器、石器 | |

## 要約


小野第２遺跡は、伯耆町の北西部の、日野川の左岸約0.8㎞の小高い丘陵に位置する。東に大山の秀景を望み、1.6㎞北西方向に標高226mの越敷山、2.2㎞南方向に標高301mの高塚山を望む。

今回の調査では、遺構としてはトンネル状遺構・竪穴建物跡・陥穴が確認された。トンネル状遺構は確認した部分は幅1.5m、深さ2.1mの溝状であったが、南東端が坑道状に続くため、トンネル状遺構とした。底部に方形や陥穴状の落込みがあることから、人為的に掘られたものと考えられる。しかし両側壁面が所々抉れた状態になっていたり、小穴状のものがみられることから、動物の生息穴になっていた可能性も考えられるが、何のためのものかは不明であり、土器等時代を確定するものが出土していないため時期の特定はできない。

調査前状況（南東から）

調査前状況（北西から）

トンネル状遺構（北から）

トンネル状遺構（北から）

トンネル状遺構（南東から）

トンネル状遺構（西から）

トンネル状遺構（北から）

作業状況

トンネル状遺構石出土状況

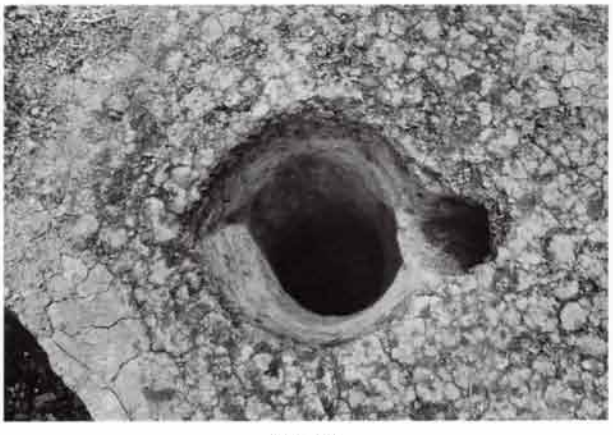
トンネル状遺構（東から）

トンネル状遺構石出土状況

トンネル状遺構（南から）

SK-01

SK-02



SK-03

SK-04

竪穴建物跡

竪穴建物跡炭検出状況

作業状況

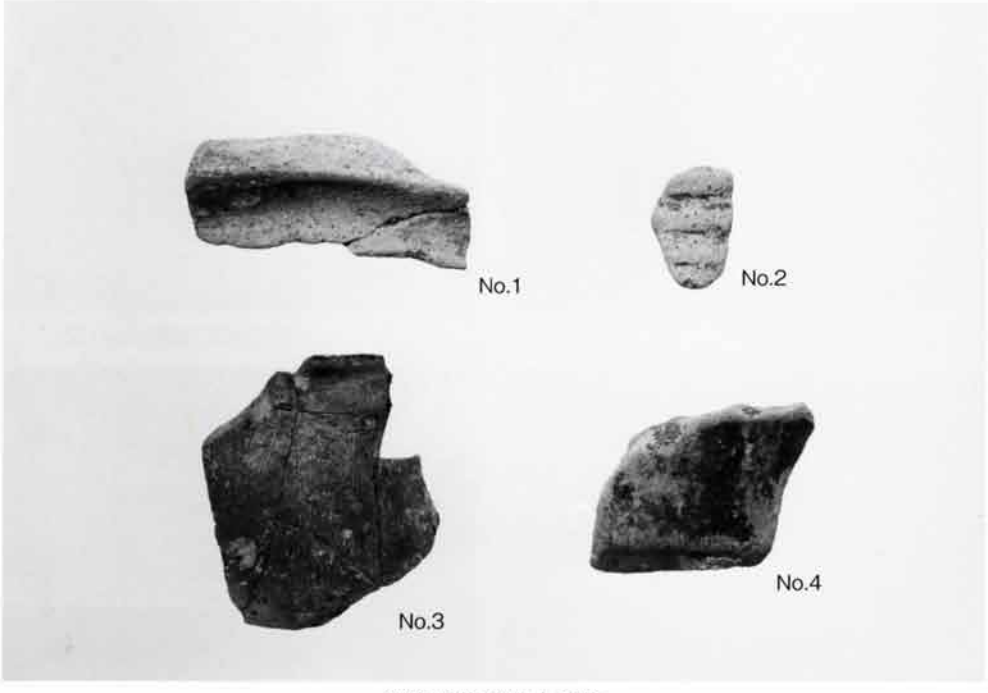
作業状況

調査後全景（東から）

調査後全景（南から）

調査後全景（西から）

調査後状況




竪穴建物跡出土遺物

遺構外出土遺物

㈶米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書６６

小野第２遺跡

２０１２年3月

編集・発行　財団法人　米子市教育文化事業団

〒６８３－００１１　鳥取県米子市福市２８１

ＴＥＬ　０８５９－２６－０４５５

印　　刷　(有)米子プリント社